

緊急プロジェクト： 「ジョブ型課長」を量産する

網島 邦夫

■ 新たな成長と繁栄のために

企業の成長と繁栄はいつの時代も第一線の社員のパワーが築く。日本の1980年代までの成長は現場力の賜物であった。2000年代からの海外の伝統企業の復活、新興企業の発展も社員パワーの全開によるものであった。日本企業に成長と繁栄の黄金法則を取り戻してほしい！ このことが本稿を書く理由だ。

今から30年前の1990年頃、日本のGDPは400兆円を超え、600兆円であった米国に迫り、追いつき、やがては追い越す勢いにあった。エズラ・ボーゲルという米国人の社会学者が日本企業を礼賛して書いた本のタイトル、「Japan as No.1」という言葉が流行していた。世界の時価総額トップ企業20社のランキングには14社の日本企業が入っていた。→

目次

1. ジョブ型社員の意味とその恩恵
2. プロジェクトX：ジョブ型社員量産計画
3. ジョブ型社員の基本①：ジョブをクラフトする
4. ジョブ型社員の基本②：自分の個性を知り、成長をマネージする
5. ジョブ型社員の基本③：顧客や社会の問題を想像する
6. ジョブ型社員の基本④：仲間を包み込む
7. ジョブ型社員の基本⑤：自主的に成果を上げる
8. ジョブ型社員の基本⑥：プロジェクトを駆動する
9. 社員が主導する社員のための活動
10. プロジェクトが成功した場合の典型的な社員の意識と行動
11. 経営者と人事責任者へのお願い



網島 邦夫 (ツナシマ クニオ)

コーン・フェリー シニア クライアント パートナー、ペンシルバニア大学ウォートンスクール Executive Education Boardの理事を務める。自動車、エレクトロニクス、金融、製薬、家庭用品業界における日本を代表するグローバル企業の人と組織の問題へのコンサルティングを行う。野村証券、マッキンゼー・アンド・カンパニー（NY）を経て、ラッセルレイノルズ、CSC Index社の日本支社長を歴任する。近年は米国や中国・深圳の新興成長企業との交流を深めている。日本企業が失われた30年を克服し、1980年代までの繁栄を復活するための経営者・人事責任者への提言と企業のフロントで活動する課長級社員へのアドバイスを行っている。『成功の復讐』『社員力革命』『エクゼクティブの悪いくせ』『役員になる課長の仕事力』『事業を創る人事』『強靱な組織を創る経営』『ジョブ型と課長の仕事』などの著書がある。